

学校運営計画（4月）				評価（3月）		
学校運営方針	<p><b>【基本方針】</b> 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、社会の変化や生徒の実態に迅速に対応できる機動的な体制を確立し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p><b>【長期目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。</li> <li>後世に優れた精神文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を身に付けた生徒を育成する。</li> <li>内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、主体的に行動し自らの責任を果たす生徒の育成を推進する。</li> <li>ICT教育の充実により情報機器を活用し、協働的活動を充実させることで論理的思考力や科学的思考力を更に伸長させ、学ぶ喜びと厳しさを体得させる活力ある授業を定着させる。</li> <li>学校行事や生徒会活動等における生徒の自治的・協働的な活動をとおり、豊かな人間性と創造力、自己教育力、リーダーシップ、自浄力を育成し、社会が求める総合的な人間教育を推進する。</li> <li>前期の区切りとしての「大運動会」と後期の区切り及び学年の総仕上げとしての「大文化祭」の二大学校行事を中心とした学校暦の充実を図る。</li> <li>生徒の現状に即した諸支援を充実させ、「人間の在り方・生き方」を見つめる教育を推進する。</li> <li>地域の自治体や小学校、進学塾と連携し、小学校や小学生の保護者向けの広報活動を充実させる。</li> </ol>			A		
	<p>評定項目</p>	<p>具体的目標</p>	<p>具体的方策</p>		<p>評価（3月）</p>	<p>次年度の主な課題</p>
	<p>学校が安全・安心な場として、そして主体的な学びの場として十分機能し、人格形成や進路実現に十分な成果を得ることができた。これは継承されてきた本校独自の教育実践をとおり、個性の伸長や人間的な成長が図られた成果である。</p> <p>今年度は、授業や課外で主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、評価方法等の検討・構築を行う。また、学校行事や部活動をとおりスーパーリーダーの育成を図り、逞しさとともに物を大切に育む。高い志と国際的素養を身に付けた有為な社会の構成員として活躍できる人材の育成に努める。</p> <p>さらに、広報活動を充実させ、本校教育活動を小・中学生を中心とした地域の方々へ理解していただく。</p>	<p>1 授業等の改善・充実</p> <p>2 豊かな人間性と実践力の育成</p> <p>3 教師としての資質・能力の向上</p>	<p>(1) 校種間の接続（中高および高大の接続）を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。</p> <p>(2) 教育活動全体をとおり、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。</p> <p>(3) 二期制の特色を生かした修猷館暦のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。</p> <p>(1) 学校行事の意義について学校全体で共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。</p> <p>(2) 命の大切さを認識させ、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させるとともに、各種調査等から生徒の実態を把握し、教育活動を充実発展させる。</p> <p>(3) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をとおり人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。</p> <p>(1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」として修猷文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。</p> <p>(2) 「語りの文化」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。</p> <p>(3) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。</p>		<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・新教育課程策定に向けて、作業を本格的に行う。3年間を見越し、他分掌や各教科と連携してバランスのとれた授業時間配分の検討を行う。</p> <p>・「主体的・対話的で深い学び」の実践が広がるなかで、評価に関わる教務内規の見直しの検討を行う。</p> <p>・昨年度に引き続き、本年度も生徒用の机・椅子を100セット購入していただいたが、経年劣化のため、まだ状態の悪いものが数多くある。次年度以降も継続的に新品との入れ替えが必要である。</p> <p>・学校備品を粗雑に取り扱わないよう、意識の向上を目指す。</p> <p>・全教職員での「学校いじめ防止基本方針」の周知、いじめ防止等の対策のための組織の名称変更。</p> <p>・いじめの未然防止、早期発見にこれまで以上に積極的姿勢で取り組む。</p> <p>・モラル、マナーアップについて全教職員が、適切なタイミングで指導・注意喚起を行う雰囲気醸成させる。また、生徒による規範意識の向上を生徒会三役を中心に行わせる。</p> <p>・「盗難をさせない」環境づくり</p>

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒部	文化・体育課	1 部活動を通して、基本的な生活習慣を確立し、文武両道を心がけさせることで、「たくましく生きる力」を持った心身共に健康な生徒を育成する。	(1) 効率的に部活動の時間が確保できるよう各教科、学年との連携を密にする。 (2) 学校生活全般（学業、生活面等）の指導を、学年・分掌等連携して行う。 (3) 部長会議や自治会の開催を促し、学校全体を引っ張るスーパーリーダーを育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長会議や自治会を活性化させ、部活動生が自治的活動へ積極的に参加する雰囲気醸成させる。</li> <li>・部活動では、「本気でチャンピオンシップを目指す」「本気で勉強に取り組む」という真の文武両道を目指す生徒を育成する。</li> <li>・人工芝のグラウンドという新しい環境での大運動会を成功に導く。</li> <li>・大文化祭では、更なる質の向上に取り組み、より進歩した修猷文化の発信を目指す。</li> </ul>
		2 感動ある、感動できる『大運動会』を目指す中で、生徒の自治的・協働的な活動とおし、リーダーシップや集団的実践力、スーパーリーダーを育成する。	(1) リーダーとの事前指導等を徹底し、生徒の主体的活動を細部にわたり支援していく。 (2) 安全性と効率性を考えた競技内容や組織へと改善する。 (3) 講習会等を実施し、リーダーシップとフォローワーシップの育成を計画的に行う。	A		
		3 『大文化祭』を当該学年の集大成と位置づけ、学校行事の運営力・自浄力の育成を図るとともに、新たな発想を取り入れた修猷文化の発信を目指す。	(1) 自治的活動を通して、リーダーシップを育成し自浄作用を促す。 (2) 折衝・企画検討会を充実させ、質の高い発表となるよう支援する。 (3) 早い段階から部顧問・学年と連携し、適切な指導を通して、準備活動を支援していく。	B A A		
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路の手引きや進路説明会等を通して、進路に対する意識を高め、高い志を養う。 (2) 大学入試改革についての情報収集を行い、今後の対応を検討する。	B A	B A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習、課外の実施については、生徒の実態を踏まえ、内容、難易度、実施形態等、より効果が高いものになるよう検討する。</li> <li>・来年度から始まる共通テストについて保護者・生徒へ正確な情報を提示し、効果的な指導に向けての対応を模索する。</li> </ul>
		2 テスト・模試の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路支援へと繋げる。	(1) 実力テスト・修猷模試・外部模試を十分に活用し、進路目標を構築させる。 (2) 進路環境の変化に対応した、補習、課外、模試等の内容・枠組みを研究する。	A A		
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) 卒業生キャリアセミナー、出前授業等を通して、キャリアデザインを意識させる。 (2) 卒業生体験発表会、東大講演会等の講演会を催し、進路意識の向上に繋げる。	A A		
	広報課	1 本校の魅力を、第六学区小中学校の児童・生徒・保護者はもとより全国に発信し、本校の社会的認知度を高める。	(1) 学校案内パンフレットなどを通じて、生徒保護者のニーズに応える情報を提供する。 (2) H Pの「修猷生の一年」の更新を迅速に行う。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校パンフレット、学校紹介ビデオ等、効果的な情報発信を行うために、内容を変更し、適切な時期に作成を行う。</li> <li>・小学生保護者説明会の実施内容等について十分検討し、十分な情報発信ができるように工夫する。</li> </ul>
		2 小学生保護者説明会、第6学区公立高校説明会、修猷フェスタの企画を更に充実させる。	(1) 本校の教育理念、教育体制および生徒の姿を来場者に伝え、本校の魅力を発信する。 (2) 生徒部および生徒会執行部との連携を深め、より良い協力体制を確立する。	B B		
		3 地域や小・中学校、および進学塾との直接的な連携を重視し、相互の信頼関係の構築に努める。	(1) 学区内の中学校を年2回訪問し、ニーズに応える資料提供と情報交換を行う。 (2) 本校の公開行事についての情報を紙ベースで早期に提供し、集客力を高める。	A B		
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実に資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。 (2) 「年間聴講制度」の円滑な運営と成果の共有に努める。	B B	B A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度に運営方法を改定した総合的な探究の時間における「課題研究」が、より主体的で協働的な学びの機会となるよう、特に研究課題の設定までのプロセスについて、さらに検討を重ね、充実を図る。</li> <li>・全教室へのプロジェクタ、P Cの配備など、ハード面での授業環境の変化を、本質的な「授業のあるべき姿」を見据えた授業改善につなげるべく、研修、議論する機会を設ける。</li> </ul>
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。 (2) 研究紀要や校誌等の刊行について、編集過程を含めた充実にも努め、活用を推進する。	A B		
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。 (2) 各教科・各分掌等による教育研究を支援するという分掌機能を充実させる。	A B		
		4 総合的な〔学習・探究〕の時間の運営支援を実施する。	(1) 自主的・協働的な活動を通じた自己教育力・相互教育力育成の機会とする。 (2) 出前授業・卒業生キャリアセミナー等における外部との連携を充実させる。	A A		
	図書課	1 読書習慣を通して、感性や論理的思考力・表現力等豊かな人間性を培う。	(1) 朝読書を軸とする充実した読書活動を、学校全体の取り組みとして推進する。 (2) 図書館ORや各種「推薦本」コーナー等の取組では、学年・他分掌と連携する。	B A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間（課題研究・出前授業等）や学校行事の関連本の購入や展示など、生徒の知的好奇心や興味関心の拡がりをサポートする取組の一層の充実を図る。</li> <li>・生徒（図書委員）の指導・伴走においては、活動の質と生徒の主体的・創造的育成の両立に留意し、丁寧な生徒把握と時宜を得た助言・指導に努める。</li> </ul>
		2 生徒図書委員の自主的活動を支援し、図書館の活動の活性化を図る。	(1) 生徒図書委員による日々の業務の遂行、及び他校との交流活動を支援する。 (2) 菁莪祭・読書会&ビブリオバトル・読書会等の企画及び広報活動を一層充実させる。	A A		
		3 情報・メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。	(1) 授業関連図書に加え、出前授業等の外部講師や課題研究関連図書の充実を図る。 (2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。 (3) 菁莪記念館（1F・3F）の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理運営を行う。	A B B		